

## 「あのヤマセミはどこへ…」

林 孝行(富士宮市大岩)

った。

この大倉川ダムでの観察は不定期に続けているが、この日以降、ヤマセミの姿は今もって確認できていない。何とか見るに耐える写真的なヤマセミ夫婦と、真がこの1枚だけだった。貴重な交尾の瞬間たちはどこへ行っただろうか。

NHKの衛星放送とができない。そのた「ニッポンの里山」とめ野鳥の中で最もランという番組が今年3月、クが高い憧れの鳥にな熊本県人吉市の球磨川ったようである。に人里では珍しい溪流 私もこのヤマセミにの鳥であるヤマセミが憧れる一人である。そよく見られることを取れというのも6年前、り上げ、「ヤマセミが富士宮市の大倉川ダム暮らす街の川」というでヤマセミに偶然出会タイトルで放送されてってしまったのであった。内容は、人と鳥る。それは私にとって、が共存できるような知数分間の心躍る出来事恵が息づいているといだった。このダムは、う心温まるものだった。車の中から双眼鏡でダム湖周辺にいる各種野

ヤマセミはカワセミ 鳥を観察できるため類の中では最も大き 時々出かけていた。

く、鳩くらいの大さき そんなある日のこである。「溪流の貴公と、見慣れない2羽の子」などと形容される野鳥が目に入った。ほど姿形が美しく、野「えっ? ヤマセミだ鳥の中でも大変人気が!」。さらにカップルあるが、絶対数が少ないのである。しかしヤ、さらに警戒心が強 マセミがいる水面は、いたためったに見るこはるか遠くで写真には

